

1 題材名 「ダンス！ねん土でワンダーランド」

2 単元について

本題材は、学習指導要領第4学年の内容A表現「見たこと、感じたこと、想像したことを絵や立体に表すことができるようにする。」を受けて設定したものである。本題材は、彫塑の重要な要素の一つである「ものの動き（ムーブメント）」に焦点を当てたものである。ここでは、動物などの擬人化された簡単な形から、細部の描写描写にこだわることなく自由に形や表情を変化させながら、また、付随させたいものを追加して作りながら創作活動を楽しめるように設定されている。自由な創造的な雰囲気の中で、この時期の児童の特徴である造形的な想像力を思う存分に働かせるようにすることが重要なねらいとなる。ここでは、粘土の特性である可塑性を生かしてできあがった形からイメージを広げて、動かしてみたり、付け足して試行錯誤し生き生きとした動きや表情を表現していく活動が中心となる。児童は、粘土の可塑性を楽しみながら好きな生き物を表そうとし、空想の世界で、生き物たちが楽しくダンスをする動きや表情を、想像力豊かに表すであろうと考える。生き物（動物）が「ダンス」をするという、現実ではありえない題材を与えることにより、現実の枠にとらわれずに想像して楽しんだり、自由な発想を生かして表現していくことができるのである。これまで経験してきた彫塑（粘土）のいろいろな表現方法を選んだり、組み合わせたり、新しい方法を考え出したりしながら表現することを通し、自分だけの空想の世界を実現させていく面白さを十分に味わわせることができると考える。一人一人の感性を大切に、それらに共感しながら、表現の楽しさを味わわせるのに適した題材である。

本学級は、男子18名、女子17名、計35名である。

本学級の児童は、創作意欲が旺盛で、与えられた題材に対して、進んで取り組む児童が多い。実態調査からは、ほとんどの児童が図工が好きであることが分かった。「想像して作ることは好きか」という質問に対しては、「自分でできないことやこの世にないどんなことも作れるから」「自分の思ったように作れるから」「きめられていないから」などの理由で、「好き」と答えた児童が24名おり、想像しながら自由に作ることを好む傾向にある。しかし、5名の児童は、「思いつかないから」「変になってしまうから」という理由で、「嫌い」と答えていた。また、作ることは好きでも自分の思ったように表現できないために満足感を味わえない児童もいることが分かった。発想の段階では、ほとんどの児童が自分の思いをふくらませることを楽しんでいる。また、自分なりの表現方法を考え、造形活動を進めることができる。しかし、自分の作品に対して自信を持たず、なかなか手を出さなかったり、思い通りにいかずに意欲が持続しない児童もいる。図画工作の中で特に好きなことは、工作であり、その理由として「いろいろな材料を使って作るのが好きだから」という回答を、ほとんどの児童があげている。彫塑（粘土）についても好きと答えた児童がえた児童がほとんどである。「やり直しがきくから」「自由に形を変えることができるから」などが主な理由である。一方、「重い通りにできない」「きれいに仕上がらない」等の理由から苦手意識を持つ児童もいる。粘土をこねたり、ひねり出したり付け足したりする活動そのものは楽しんでいるようであるが、この時期（中学年）の児童にとっては、完成した作品のできばえも気になるようだ。自分の思い通りに行かない場合どうするかという問いに対して、友達の作品を見て工夫する（8名）、先生に聞く（19名）、参考作品を見る（8名）だった。

以上のような題材の特質や児童の実態を踏まえ、一人一人の思いが十分に表現できるように、次の点に留意して指導にあたりたい。

実際の活動に入る前に、体育の表現で動物ごっこや音楽をかけて踊る等の活動を取り入れることにより、心のリラックスを図り表現を身近に感じながら楽しく取りかかることができるようにする。

題材との出会いにおいては、自由なイメージの雰囲気作りのためにダンスにつながるような（ラテン、ワルツなど）の音楽を流し、草原の向こうからやってきた動物が音楽に合わせて踊っている様子を想像させる。「粘土も動物になって踊り出したい」気持ちになっていることを伝えて導入し、題材への思いを深めさせる。

粘土が形を自由に変えられる素材であることを十分に体験できるようにしたい。体全体を使って粘土をよく練り軟らかくし大きな固まりにしてから伸ばしたりひねり出したりする中で、生き物の形を生み出したり体を自由に動かしたりする表現の楽しさを味わえるようにしたい。また、途中で自分の思いが変わってもよいことを知らせておき、安心して取り組めるようにする。

ヒントコーナーを設け、丈夫で、動きのある作品にするための、補助材を提示しておく。表現に幅を持たせるために児童が必要に応じて自由に活用できるようにしておく。補助材を使うことで形を補強したり、より自由で大胆な表現ができるようにしたい。

出来上がった作品からどんどん展示し、お互いの作品を鑑賞する時間をとる。お互いの作品を並べたり、からませたり、対話させたりすることで自由に生まれるストーリーを大切にしながら作品に対する児童の思いを深めさせたい。

このような支援を行い、児童の思いや願いを伸び伸びと自信をもって表現できるようにさせることで、本校の教育目標である「ねばり強く考える子供」の育成を図っていきたいと考える。

3 題材の目標

形を自由に変えられる粘土の特徴を生かし、生き生きした動きを工夫して作ることができる。

【造形への関心・意欲・態度】

- ・音楽やリズムに合わせて体を動かしたりダンスをしたりする姿や形に関心を持つとする。
- ・粘土の感触や特徴に気づき、思いを表すことを楽しもうとする。

【発想や構想の能力】

- ・ダンスの様子を想像したり、ポーズをとったりして、感じが出るような形を考えることができる。
- ・粘土の形を自由に変えながら、ダンスをする動物を想像することができる。

【創造的な技能】

- ・用具の特性を生かしながら、体や手、指などを働かせて動きのある形を立体的にとらえて作ったり踊る感じが照るように作ったりすることができる。

【鑑賞の能力】

- ・友達や自分の表し方の共通点や違いを見つけたり、形のおもしろさなどについて話したりすることができる。

4 指導計画（2時間扱い 本字1/2）

段階	時	目 標	学 習 活 動
出 会 い	1 (本 時)	いろいろな動物がリズムに乗ってダンスするところを想像する。	・動物たちがワンダーランドに集まってダンスパーティーを開くところを想像する。
試 す		動物の動きや表情を想像し、楽しい動きになるよう構想を練り、表現する。	・自分が作りたい動物のイメージ(形・うごき・表情)をふくらませ構想を形にしていく。
広 げ る	2	ダンスの一瞬動きに注目し粘土の特性を生かした表現を工夫する。	・思いや発想を広げ、一瞬の動きをいろいろ工夫して表現する。
鑑 賞 す る		友達や自分の作品の良さを見つけ、工夫したところを味わう。	・作品を展示し、自分や友達作品を見て話し合い、良い表現を味わう。

5 本時の指導

1) 題材名 ダンス！ねん土でワンダーランド

2) 本時の目標

- ・動物たちがリズムに乗って楽しくダンスするところを想像する。
- ・粘土の特徴に気づき、活動を楽しもうとする。

【造形への関心・意欲・態度】

- ・動物の動きや表情を想像し、楽しい動きになるよう構想を練り、表現する。

【発想や構想の能力】

3) 本時の指導に当たって

導入では、楽しい雰囲気盛り上げるために、思わず体が動き出すような曲を用意する。事前に、好きな動物になり踊る経験しておくことで、想像をふくらませることへの支援としたい。活動中に、踊ったときの音楽を流しておき想像したことを具体的に表現していくための手だてとしたい。制作段階においては、粘土が形を自由に換えられる素材であることを十分に体験させたい。体全体を使って粘土をよく練り、柔らかくし、大きな形にしてから伸ばしたりひねり出したりする中で、生き物の形を生み出したり、体を自由に動かしたりする楽しさを味わえるようにしていく。活動が停滞している児童に対しては、対話をしていく中でつまずきを見つけ、支援していきたい。また、活動場所にヒントコーナーを設けて、「工夫にするため」「動きを出すため」の補助材や、粘土の扱いについてのヒントを提示しておくなどの場の設定の工夫により、児童が必要なときに活用できるようにしておく。さらに、制作の過程で友達表現の仕方を見合ったりできるような自由な雰囲気を作り、新たな試みをしたり、自分で解決していく場の設定を大切にしたい。

4) 準備物

- < 教師 > 音楽テープ，補助材（竹ぐし，つまようじ，針金，割り箸などのしん材）
粘土べら，ビニール袋，掲示物（ヒントコーナー用）
< 児童 > 粘土，雑巾，粘土板

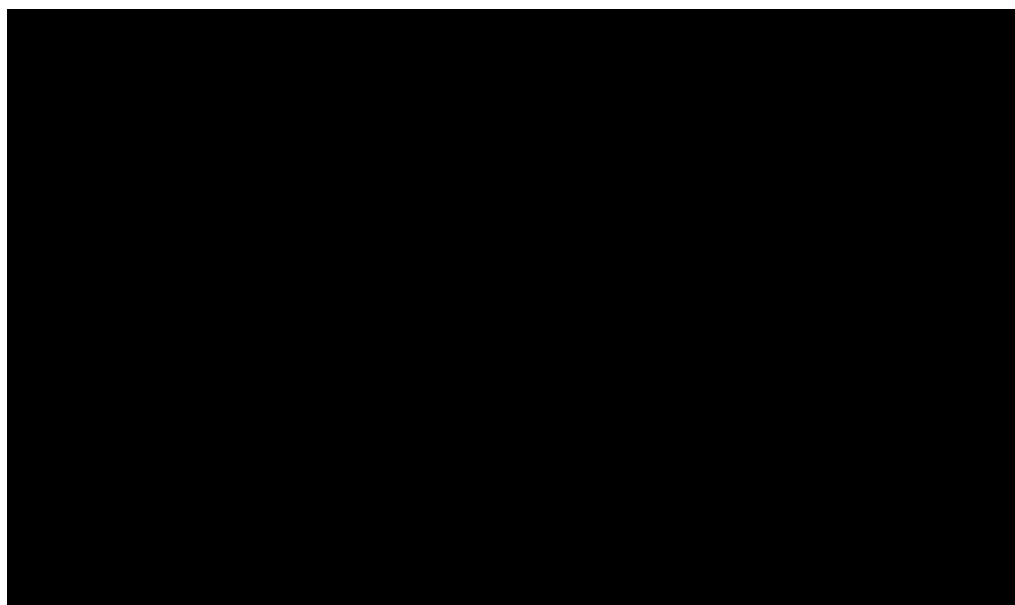
5) 指導過程

段階	主な学習活動	指導上の留意点	備考
出 会 い (10分)	1 学習内容を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ねん土が動物になって おどり出した。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな動物かな。 ・どんなおどりをするかな。 ・ さんのポーズがおもしろ いよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動物たちがワンダーランドに集まってダンスパーティーを開くところを想像させる。 ・ 自分が作りたい動物を考えさせる。 ・ 音楽に合わせて踊る動物の姿を身体表現させる。 ・ 想像をふくらませるために，事前に，好きな動物になり踊る経験をさせておく。 <p>関 おもしろいダンスの姿や形を表現することに関心を持つようとしているか。 (つぶやき，観察)</p>	音楽テープ
(本 時)	2 ねん土で，おどっている動物を作る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 体をひねっているよ。 ・ マイクを持っているよ。 ・ うまく立たないな。 ・ 頭がとれそうだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作りたい動物の形をイメージしながら，どんなダンスの動きなのか想像を深め，形にしていくようにする。 ・ 体や手でねん土の感触を味わい量感を体感させる。 ・ 試行錯誤しながら構想を練っていく活動を大切にする。 ・ ヒントコーナーでは，必要に応じて，補助材として針金，竹ぐしなどを使うと良いことを提示する。 <p>発 いくつかのポーズの中から思いに合う形，ダンスの形，動物などを思いつくことができたか。(作品，観察)</p>	粘土 粘土板 雑巾 (ヒントコーナー)
試 す (20分)	3 動物の一瞬の動きや表情を工夫する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">楽しそうにおどっている いっしゅんの動きや表情を工夫 してみよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目の表情 ・ 口の開け方 ・ 耳，たてがみの様子 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動物全体の動きに注目し台座を回して多方向から見て作るようにさせる。 ・ 動きを出すために，曲げる，ねじる，丸める，ほじくる，ひねり出す，付け足すなどいろいろな方法があることを試行錯誤の中から見つけさせる。 ・ 動きに着目するためにバランスを崩したり倒れてしまう場合には補助材を利用させる。 ・ 細かい部分は，ねん土べらの他に身近材料を用意し自由にさせる。 	どべ 水 身近材料 粘土べら
広 げ る (50分)			

	<ul style="list-style-type: none"> ・足，うでのポーズ ・体のひねり ・顔の向き 	<p>発 初めの計画を見直し，新しい発想を加えるなど，計画を見直そうとしているか。 (作品，観察)</p> <p>技 思いや発想を広げ，一瞬の動きを工夫して表したい感じになるまで形を変えて作っているか。 (作品，観察)</p>	
鑑賞する (10分)	4 作品を展示し自分や友達の商品を見せ合い話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫したところや，動きや表情の良いところなどを見つけて鑑賞させる。 ・全作品を飾る展示場所を工夫し，音楽をかけてワンダーランド気分を味わわせる。 <p>鑑 友達や自分の商品の良さを見つけたり，共通点や違いを見つけたりしているか。 (会話，振り返りカード)</p>	ワンダーランド

6) 評価の観点 (別紙 指導計画と評価の観点参照)

7) 板書予定



8) 支援計画表 (別紙1参照)

9) 場の設定

